



小城市立歴史資料館 ✿ 中林梧竹記念館だより

小城市重要文化財に指定されました

土生遺跡は、今から2000年程前の弥生時代中頃に嘉瀬川以西における拠点集落となりました。その成立前と衰退後に拠点となる集落域が移っていった様子などを知ることのできる資料として、石木中高遺跡（三日月町石木）や丁永遺跡（小城町松尾）から出土した土偶や前漢鏡などの考古資料2件7点が新たに小城市重要文化財に指定されました。

◆文化財名

- 石木中高遺跡出土土偶1点、附土製品2点
- 丁永遺跡出土連弧文昭明鏡（破鏡）附6号甕棺1点、碧玉製管玉1点、供献土器（鉢）1点



◀ 丁永遺跡出土連弧文昭明鏡

文化財説明板を設置しました

文化課では「～小城どこでんミュージアム～屋根のない博物館構想」に基づいて、毎年市内に所在する文化財などに順次説明板を設置したり、古くなったものは更新したりしています。

令和4年度は、芦刈町の松土居と芦刈町小路の神代氏のお館跡の説明板を更新しました。お近くに行かれる際には、ご見学ください。



▲芦刈町の松土居



▲芦刈の神代氏のお館跡

おぎの歴史 ✿ 探検隊

小城市の尊王運動〈その1〉

芦刈町の一部を治めた神代家の家臣の横尾紫洋は京都で早い時期に尊王を鼓吹しました。幕府に囚われ、芦刈町の神代領小路の永明寺に幽閉され斬首となりました。

小城町では、かの祇園太郎がやはり尊王運動に参加しました。彼は西郷大庄屋出身で古賀利渉と言い、墓は清浄院にあります。

幕末には神代領家臣で芦刈町三王崎の江原喜右衛門が江藤新平と共に尊王運動に従事しました。新平の従兄弟で、墓は福田寺にあります。のちにその子は神代と改姓して長崎県議会の副議長となりました。墓碑を記したのは長崎の西道仙で、勤王の志士で、万歳三唱を考案して世に広めた人物でした。同寺には新平の母方の生家である浦氏の墓もあります。浦氏は新平の父の晴気移住を世話し、処刑後に

はその首級を埋葬しました。

ところで佐賀市の龍造寺八幡宮では幕末尊王の義祭同盟が行われ、境内の橘神社には楠木正成の菊水紋が彫られています。

小城町の須賀神社裏手中腹の大楠神社でも楠公

が祀られ、菊水紋が刻まれています。これは柴田花守によります。さらに芦刈町中溝の乙宮神社の拝懸魚にも菊水紋が彫られています。本殿改修は万延年間で義祭同盟と同時期でした。江原喜右衛門の妻はのち初代村長をだす氏子の横尾氏の出で、この菊水紋には江原も当然に関わっていたと考えられます。(続)



▲乙宮神社の菊水紋

小城郷土史研究会／著

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課（桜城館2階） 担当 下川・永田 ☎71・1132